

IGF 2025 1st Open Consultation and MAG meeting

開催日時:

2月5日(水) 9:00-11:35(前半) 13:00-14:40(後半) (ジュネーブ時間)
 17:00-19:35 21:00-22:40 (日本時間)

参加者:

- 2025年MAGメンバー: 加藤幹之(MKnext)
- オブザーバー: 河内淳子(CFIEC)

プログラム

09:00 - 09:30 冒頭陳述および議題の採択

- Welcome by MAG Chair: Carol Roach の挨拶
- Adoption of the agenda: そのまま合意
- Welcome by IGF 2025 Host Country update on IGF 2025 preparations followed by a Q&A: ノルウェー政府 Mr. Ole-Martin Martinsen 氏からの挨拶とホスト国からのプレゼン (Ms. Tu An Ngo より)

09:30 - 10:00 IGF 2024 の総括と IGF 2025 に向けた検討

- IGF Secretariat's summary of the inputs received to the stocktaking process concerning the programme and schedule, other general IGF improvements and linkages to broader UN policy agendas (if applicable): Celine (国連 IGF 事務局) より説明

<https://www.intgovforum.org/en/content/igf-2025-suggestions-2024-stocktaking>

(意見)

- もっとジャーナリストを招待してメディアに記事を載せてもらうべき。
- NRIs のセッションなどをもっと目立つ場所などで行ってはどうか。
- 国連事務総長をビデオでなく現地に招待すべき。

10:00 – 10:15 Short Break

10:15 – 11:30 進行中および今後予定されているプロセスにおける IGF 2025 (GDC & WSIS+20)

下記の国連各機関代表より最近の状況と今後の活動予定などについて報告が行われた。

GDC Brief from the Office on Digital and Emerging Technologies (ODET): Ms. Isabel De Sola

<https://unctad.org/topic/commission-on-science-and-technology-for-development/working-group-on-data-governance>

<1. GDC の実施とフォローアップ体制>

国連事務総長とニューヨークの閣僚が”Pact for the Future”の監督を担う運営委員会を設立し、GDC を含む 6 つの柱（気候変動、若者、金融、改革、平和・安全、デジタル技術）を推進。デジタル技術作業部会は、ODET と ITU が共同議長を務め、UNESCO、UNDP、OHCHR などが副議長となっている。GDC の実施責任は各加盟国にあり、国連は支援・調整役としてリソースを提供する。

<2. IGF コミュニティの貢献方法>

1. GDC の実施監視と報告：IGF の既存のガバナンス（MAG など）が GDC の進捗を監視し、デジタル技術作業部会に報告する役割を期待している。国連経済社会局（UNDESA）と IGF 事務局が情報伝達の主要チャネルになるだろう。
2. 各国・地域レベルでの GDC 実施支援：NRIs が加盟国の GDC 実施を支援し、具体的な青写真作成を検討。GDC 実施マッピングを通じて、地域のステークホルダーとの連携強化を目指す。

<3. GDC 実施マッピングの活用>

GDC 実施マップを開発し、加盟国やステークホルダーが情報を共有できる仕組みを構築。過度な情報提供の負担を防ぐため、IGF コミュニティと WSIS 評価プラットフォームの統合を検討してはどうか。

<4. 期待される次のステップ>

デジタル技術作業部会が GDC 実施マップの詳細を近日中に発表予定。IGF コミュニティと WSIS プラットフォームを通じたデータ共有と協力体制の確立が必要。GDC の国家・地域レベルでの実施支援のため、関心のある国々と協力し、青写真のテンプレートを作成したい。

<まとめ>

GDC の成功には、多様なステークホルダーの関与が不可欠。IGF コミュニティは進捗監視と情報共有、国家レベルの GDC 実施支援を担い、国連と連携しながら実施の枠組みを強化することが求められているのではないかと。

WSIS+20 Review Brief from the UN Department of Economic and Social Affairs (UNDESA) : Mr. Denis Susar

<https://publicadministration.desa.un.org/ws20>

UNDESA は、WSIS + 20 レビュー（2025 年開催）の事務局としての役割を継続し、情報提供のための専用ウェブサイトを開設した。

<1. WSIS + 20 レビューの進捗>

2025 年に WSIS の進捗を評価し、課題を特定し、2030 に向けたアジェンダの見直しに貢献することが求められている。国連事務総長はケニアとリトアニアの常駐代表を政府間協議の共同進行役に任命し、方法論の確定に向けた協議が間もなく開始される。WSIS Plus 20 のレビューは、ロードマップの確定後に正式に開始される予定。

<2. 今後の計画と国連の関与>

国連総会は、2025 年 3 月末までに実施要項を完成させるよう要請しており、今後数週間は作業が集中する見込み。WSIS+20 のレビューには、国連情報社会グループ（UNGIS）の積極的な関与が期待されている。GDC や他のデジタルガバナンス目標との整合性も重視される。

<3. UNDESA の役割と目標>

マルチステークホルダー・マルチエージェンシーのプロセスを促進し、IGF 2024 のフィードバックを活かす。また、NetMundial+10 で採択されたサンパウロのガイドラインを推進し、協調的なデジタルアプローチを確立。幅広いステークホルダーと国連機

関の支援を得て、WSIS+20 レビューを成功裏に完了させることが目標。WSIS+20 のレビューは、デジタルガバナンスの国際的な枠組みと連携しながら進められ、国連総会の決定に基づき、多くのステークホルダーの関与を得て進行していく予定。

Brief from Commission on Science and Technology for Development (CSTD)

サンジェイバン・ファリフ氏 (UNCTAD 科学技術革新部門責任者)

<https://unctad.org/topic/commission-on-science-and-technology-for-development/wsis-20-year-review>

<1. WSIS+20 レビューの進捗>

CSTD は、ECOSOC および国連総会から WSIS 成果のフォローアップを任されている。京都での IGF2023、UNCTAD ウィークでの協議、オンラインアンケートなどを通じてステークホルダーとの意見交換を実施。ジェンダー、環境、デジタル経済、子どもの権利に関するテーマ別協議を、UNEP、UN Women、ユニセフと協力して推進中で、2024 年 4 月 7 日の CSTD 年次会合で統合報告書を提出予定。

<2. GDC との連携>

CSTD は GDC の実施と WSIS の関係を議論し、年次会合の 1 日をこのテーマに充てる予定。年次決議に WSIS の進捗と今後の見通しを反映し、ECOSOC に提出予定。

<3. データガバナンスに関する作業部会>

GDC の目標 4 に基づき、データガバナンスに関する作業部会を設置。200 以上の申請の中から、非国家主体の利害関係者 20 名を選出予定。2024 年第 1 四半期中に最初の会合を開催する予定。

Brief from the International Telecommunication Union (ITU)

Ms. Gitanjali Sar より報告

<1. WSIS+20 の進捗と今後の計画>

これまで、WSIS ハイレベルイベント、IGF、各国連機関のガバナンスプロセスを通じて、多くの意見を収集してきた。2025 年 3 月までに実施方法に関する決議を策定予定（リト

アニア・ケニアが共同進行役）。2 月 11 日に公開協議会を開催し、2025 年以降のビジョンについて議論を行う。WSIS+20 ハイレベルイベントは 2025 年 7 月 7 日～11 日に開催予定で、参加登録はすでに受付中。

<2. WSIS のガバナンスと GDC との関係>

国連機関が WSIS 行動指針に基づいて役割を分担（例: WHO は e ヘルス、UNESCO はメディア、ITU は ICT インフラ）。GDC と WSIS の整合性を確認するマトリックスを作成。データベースの更新を推奨し、WSIS の成果を可視化し、報告。

<3. 2025 年以降の WSIS ビジョン>

この 20 年の成果を振り返るだけでなく、今後の課題や目標を設定。ストックテイク・データベースを活用し、WSIS+20 報告書を作成。オンラインによる意見募集の期限を 2024 年 3 月 14 日まで延長し、より多くの提案を収集予定。

<4. 参加・貢献の呼びかけ>

WSIS 賞の応募締め切りは 2 月 10 日。WSIS+20 ストーリーキャンペーンで、個人や組織の取り組みを 20 秒の動画で共有することを推奨。2025 年以降の WSIS の方向性を議論するため、多くのステークホルダーの参加が必要。

<まとめ>

WSIS+20 は、過去の成果を振り返るだけでなく、2025 年以降のビジョンを形成する重要なフェーズに入っており、国連機関や各国、民間・市民社会などのステークホルダーが協力し、WSIS と GDC の整合性を確保しつつ、持続可能なデジタル発展を推進することが求められている。

Open floor discussion on collaborative approaches and positioning of the IGF, including through partners, in international Internet Governance initiatives

（意見）

- ODET と IGF の間でのコミュニケーションをよくするために、リエゾンを設置してはどうか。→ODET 組織内部で相談する。

- ODET が NRI ネットワークを利用するという計画や意図は、非常に前向きで、いいと思う。今年の IGF と NRI を、GDC の実施のための青写真の策定に向けたプラットフォームとして活用すべきだと思う。
- デジタル協力やデジタルガバナンスに取り組む組織は数多くあるが、IGF はその中でも最も主要なものであると GDC は規定している。IGF はインターネットガバナンスの問題を議論するための主要なマルチステークホルダー・プラットフォームであり、代替の議論の場に資源を投資して無駄にすることを避けるべき。
- この議論でアイデアを WG on Strategy で具体的な提案や行動計画などにしたので、ぜひ皆に参加してほしい。

11:30 – 13:00 休憩

- 後半のセッションが始まる前に、Adam Peake（元 MAG メンバー）が、「今後、IGF は、国連システム全体のプロセスの招集者”Convener”として、世界中の関係者が参加するための仲介をする役割を果たせるのではないかと、前半の議論の結果についてのコメントを述べた。

13:00 – 13:15 IGF 2025 テーマ募集

- IGF Secretariat’s summary of the IGF 2025 Call for Thematic Input

Celine がテーマに関する意見募集の詳細な結果について説明。

13:15 – 14:55 IGF 2025 のテーマとプログラムへのその他の戦略的アプローチ

- Host Country presentation and suggestions to the programe

ノルウェー政府よりメインテーマとサブテーマ案が下記の通り提案された。

- Overarching Theme “Building Digital Governance Together”
- Sub-Themes:
 1. (Building) Digital Trust
 2. (Building) Responsible Innovation
 3. (Building) Universal Access
 4. (Building) Digital Rights

5. (Building) Sustainable Progress

- Open discussion on IGF 2025 overarching theme/title and sub-themes

(意見)

- 多くの参加者より、提案されたテーマは包括的でとてもいい、という評価。
 - ただ、5つは多く、特に4と5は1-3でカバーされているので、不要なのでは？
 - 分野横断的な視点が入っていたほうがいいのではないか。
 - "Digital cooperation"という言葉が入っていたほうがいいのではないか
-
- Open discussion on IGF 2025 programme structure including: thematic tracks/sub-themes, session types, and other programme components (high-level leaders track, parliamentary track, youth engagement, intersessional work sessions)

(意見)

- いろいろなタイプのセッションがあったほうがいい
- NRI はもっと中央ステージのようなところで発表などを行ってはどうか
- 同じテーマのセッションがいくつもあるので、統合することを検討してはどうか
 - →提案されてから統合するのはかなり難しいことが多いので、提案前に同じテーマの人が集まれるような仕組みを考えられないか？
- 学術トラックについては、ライトニングトークを利用してもらっており、新しい研究発表などにとても役立っている
- ネットワーキングセッションは部屋でやらなくても、コーヒーを飲みながら、とかランチの際などにできるのではないか？

14:55 – 15:00 次の2日間の目標、総括と終了

最後に、今日しなければならないことが終わっていることと、明日の予定を確認して終了。

Day 2 | 6 February 2025 MAG Meeting

開催日：

2月6日（木） 9:00-11:30、13:00-15:35（現地時間）

参加者：

- 2025 年 MAG メンバー： 加藤幹之（MK Next）
- オブザーバー： 河内淳子（CFIEC）

09:00 – 09:15 MAG 会議の開始とオープンコンサルテーション
のまとめ

MAG 議長の挨拶と議題および会議目標の確認

09:15 – 09:35 IGF 2025 MAG 作業部会からの最新情報

IGF 2025 MAG 作業部会からの作業計画と最新情報の提示

WG on Strategy (by Titti Cassa)

2020 年に設立され、主な目的は、短期・中期的に実行可能な行動を策定し、MAG を支援して IGF の地位を強化することを目的としている。現在登録者 215 人。おおよそ 2 週間に 1 度会合を開催。2025 年度の活動プランを下記にまとめている。

https://docs.google.com/document/d/1bLU-ArnNjN_47wm7Suv283FvFVEjBOzT/edit

（活動プラン内容）

1. 年次 IGF の改善について、IGF でのセッションの成果志向性を強化するための戦略を策定する MAG を支援しようとしている。議論をどのように改善し、インターセッションナルワークをプログラム全体の中でより適切に位置づけるか。また、この対話に NetMundial+10 サンパウロマルチステークホルダー・ガイドラインを統合するよう試みる。

2. WSIS+20 のレビューに関して、IGF と CSTD 間の調整を強化し、IGF が WSIS プラス 20 のレビューにより深く関与できる方法を検討する。また、WSIS+20 プロセスにおいてより積極的な役割を果たすため、この議論に NRI を関与させ、地域レベルにおける WSIS 行動指針の実施状況を評価し、WSIS 行動指針の実施について、NRI レベルでの議論を活性化させる。
3. GDC 実施に関して、IGF と GDC が関わるためのフォローアップ・トラックを提案し、WSIS の枠組みと GDC の枠組みをどのように統合するか、部門横断的な活動が概念の実施にどのように貢献できるかを議論する。GDC の実施に関与するその他の国連機関と IGF の間の協力を強化すること、また、GDC の目標を WSIS 行動計画にマッピングすることも重要だと考えている。

WG on Process (by Lito Ibarra)

この WG は毎年、ワークショップの提案に関する必要事項、フォームの形式、内容、評価基準、評価手順、評価プロセスにおけるタイムラインなどについて改善するために見直す作業を行っている。ちなみに、今年は年次 IGF の予定に合わせてワークショップ提案の募集も早まっており、来週の水曜日に提案の募集を開始する予定。

WG on Youth Initiative (by Saba Tiku)

この WG は、若者の IGF への参加を促進する目的で昨年設立された。昨年は、若者向けトラックの能力開発イニシアティブに関する IGF との連携を行ったほか、継続的なコミュニケーションを確立するために若者と協力した。また、IGF 若者メンターシップ・プログラムを実施し、インターネットガバナンスにおける若手リーダーの育成を支援することを目的としており、彼らの知識、スキル、キャリアの機会を向上させることを目指しているさらに、IGF 事務局と連携し、若者たちが 2024 年の IGF に向けて質の高いセッション提案を提出できるよう指導するワークショップを開催した。

今年予定している活動は、ユース・メンターシップ・プログラムの継続、ワークショップの実施、IGF 2025 Youth Track との協力関係を強化、また、新しい取り組みとして若者向けのインターンガバナンスに関するウェビナーの実施を考えている。

09:35 – 10:15 ポリシーネットワークとベストプラクティスフォーラムの選択

IGF 2025 ポリシーネットワーク(PN)およびベストプラクティス・フォーラム(BPF)の提案のプレゼンテーションと選定

PN on Internet Fragmentation - PNIF (by Tereza Horejsova)

GDC はインターネットの断片化に関する取り組みを明示しており、IGF がこのようなマルチステークホルダーの意見をこのトピックにして提供できることを実際に示すことが重要。

PN on AI - PNAI (by Amrita Choudhury)

この PN は 3 年目となるが、今年は、AI に関連して、IGF が GDC の実施と統合する方法についてのアイデアと計画をまとめた報告書の作成を継続することを提案している。また、AI に関するフォーラムなどに参加し、この PN で作成した報告書や意見を提出するほか、地域別 IGF でも AI に関する議論において、この PN での取り組みを共有していきたい。

IGF とデジタル協力及びガバナンスに関するグループ（デジタル協力 G）新設の提案（by Valeria Betancourt/代理 Anriette Esterhuysen）

MAG 議長から、IGF が GDC のフォローアップと実施を促進する方法を検討する作業部会を設置するよう要請があり、別途グループを設置してはどうかという提案があった。

Best Practice Forum on Securing Access to the Internet and Protect Core Internet Resources in Contexts of Conflict

（説明はほとんどなし）

PN on Meaningful Access - PNMA (by Alhagie Mbow)

PNMA は次の数十億の人々を接続し、利用可能にする目的で設立された。GDC では、至る所で有意義なアクセスの実現が重要であるとされている。2025 年は GDC の実施、特に、アクセスに関連する分野、それを有意義なものにする方法、改善を測定する方法、そして実際に特定されたベストプラクティスや成功した政策を普及・拡大する方法に重点的に取り組む予定。

（意見交換）

- PNIF と新設を提案されているデジタル協力グループとで重複はないのか？
- PNAI について、現在、地域的にも世界的にも、AI に関して議論などをする場が多すぎるので、AI について議論するフォーラムをさらに増やすことよりも、むしろ複数のイニシアティブ間の調整を PNAI はすべきではないか？→これまでも、今後もその予定。IGF は、多様な議論が行われるプラットフォームであるべき。

- PN/BPF を担当しているコンサルタントは 4 人しかいないので、提案されている 5 つすべてはできない。
 - 4 つのみ選ぶ場合の MAG メンバー 23 名による投票を実施。その結果は、PNAI 20、PNIF 13、デジタル協力 G 20、BPF 13、PNMA 19
 - PNIF とデジタル協力 G のメンバーで相談し、合併できないか検討。一方、PNAI、PNMA と BPF は継続するという案はどうか。→ほぼ全員が賛成し決定。

10:35 – 10:50 Short Break

10:50 – 11:30 IGF ダイナミック・コアリション(DCs)、各国・地域別 IGF イニシアティブ(NRIs)、能力開発イニシアティブ間の連携強化

IGF 通年作業コミュニティからの最新情報

それぞれ担当者より活動内容の報告が行われた。

- DCs (by Markus Kummer)
- NRIs (by Macwilliam Appianing)
- Parliamentary Track (by Celine Bal)

11:30 – 13:00 Break

(最初に、前半の最後の議論について再度検討が行われた)

前半の最後に、5 つの PN/BPF/新しいグループの提案を 4 つにするために、PNIF と新しく設置するグループを統合してはどうか、ということになったが、統合は簡単なことではなく、また、時間もリソースも少ない今年、新たにグループを立ち上げる必要があるのかどうか、他の WG、PN、DC などでも同様に GDC のフォローアップなどを念頭に活動を行っており、重複するのではないか、などの意見が出された。

議論の結果、これまでの PN、BPF、DCs はそのまま継続させ、新しいグループは設置せず、その代わりに別のコンサルタントを雇って、それぞれの活動における GDC のフォローアップに関する活動を IGF として統合することを検討することとすることになった。

13:00 – 14:45 IGF 2025 の全体テーマとサブテーマに関するコンセンサスの取りまとめ

オープンコンサルテーションの結果を踏まえ、IGF 2025 の全体テーマとサブテーマについて合意する。

<全体テーマ>

議論の結果、投票を行い、下記のようになった。

- **“Building Digital Governance Together” 79%**
- “Shaping Digital Governance Together” 21%

<サブテーマ>

数は4つがいいという意見が多いので4つとする。

1. (Building) Digital Trust and Resilience
2. (Building) Sustainable and Responsible Innovation
3. (Building) Universal Access and Digital Rights
4. (Building) Digital Cooperation

(出された意見)

- IGF at 20 のように、20 周年を表現する言葉を入れてはどうか、という意見もあったが、最終的には入れないことになった。
- 去年のメインテーマにも”Building”という単語を使ったので、今年は”Shaping”としてはどうかという意見が出された。
- 5 つ目のサブテーマを 2 番目のテーマに統合してはどうか。
- 横断的なテーマである「デジタル協力」についてサブテーマにいらてはどうか

14:45 – 14:50 Short Break

14:50 – 15:33 プログラム全体の構成と流れ

IGF 2025 年次プログラムの策定：

- イベント形式と流れ（メイン会場とワークショップ会場、時間配分

- セッションの種類と数
- その他のプログラム構成要素の統合（ハイレベルリーダーズトラック、議会トラック、若者、司法およびビジネスとの関わり、会合期間外の作業セッション

（出された意見）

- ネットワーキングセッションは会場外でもできるが、セッション自体は残すべきという意見があった。
- ライトニングトークも、研究者の発表などに有効に活用されている。
- デイゼロイベントもオープンフォーラムも重要。

最終的に、昨年までのセッションはそのまますべて今年も行うこととなった。

15:33 – 15:35 合意事項のまとめ、今後のステップ、閉会

今日の議論の結果と明日の議論内容の予定を確認後、終了。

Day 3 | 7 February 2025 MAG Meeting

開催日：

2月7日（金） 9:00-11:30、13:00-14:15（現地時間）

参加者：

- 2025 年 MAG メンバー： 加藤幹之（MK Next）
- オブザーバー： 河内淳子（CFIEC）

プログラム

09:00 – 09:05 議題と会議の目標の確認

09:05 – 10:00 IGF 2025 のサブテーマに関するコンセンサスの取りまとめ

オープンコンサルテーションの結果を踏まえ、IGF 2025 のサブテーマと説明文について合意する。

Google Doc 上で各サブテーマの内容について意見交換

<https://docs.google.com/document/d/1W82lvUCZXEczDh9fCMku7rexHLHMrM0/edit>

（出された意見）

- この4つのサブテーマの詳細は、主にワークショップを提案しようとする人たちが読むものなので、それを念頭に置いて、テーマの内容を明確にし、幅広く多様性があるほうがいいのではないか。
- 内容が一般的になりすぎるのもよくないが、デジタルの変化は速いので、特定しすぎるのもよくない。

- 4 つ目のサブテーマ「デジタル協力」については、デジタル協力プロセスを確実に実施するために、持続可能で安定した資金調達やその他のリソースの確保が重要であることを明記してはどうか。
- GDC に限定するような表現やいくつかのサブテーマに重複するような表現は避けたほうがいいのではないか。

(次のステップ)

2 月 12 日（水）にセッションの募集を開始するので、その前までに少人数の MAG メンバーボランティアと事務局で最終版に仕上げる。

10:00 – 10:15 Short Break

10:15 – 11:30 提案募集のスケジュールとプロセス

セッションの選択と関連基準へのアプローチ方法とは？ワークショップ提案プロセス

ワークショップの提案プロセス、提案必須条件、評価基準、提案フォームの内容などについて毎年改善するための検討を行っている WG on WS Process の共同進行役である Lito Ibarra が今年の案について説明。提案必須条件は、ジェンダー、地域、セクターなどのダイバーシティ、ハイブリッドの要件（オンサイトにモデレータを含め最低 3 名など）、スピーカーの数（5 名までを推奨）とする。

(出された意見)

- インターセッションナルワーク（NRIs、PN、BPF、DCs など）との関連性を明記してもらい、評価の際に優先度を上げるべきではないか。
- オンサイトのスピーカーの必須人数については、責任者がオンサイトにいれば、もっと少なくてもいいのではないか？
- セッションを提案する時点で、スピーカーがオンサイトで参加できるかどうかは不明なことが多いので、オンサイト参加スピーカーの数を多くするのはどうか。

(合意事項)

- モデレータを含むオンサイトスピーカーの最低人数は 3 名とすることで合意された。
- セッション提案フォームの内容、セッション提案から評価・決定までのスケジュール案についても Lito から説明が行われ、特に異論はなかった。
- インターセッションナルワークとの関連を評価項目として考慮することについては合意された。

11:30 – 13:00 Break

13:00 – 14:00 IGF の戦略的ビジョンと WSIS+20/GDC へのアプローチ

- 強化された IGF のための戦略的ビジョンの設定
- WSIS+20、GDC、その他の関連プロセスへのアプローチ
- 2025 年サイクル以降の高レベル戦略的優先事項を議論するためのリーダーシップパネルとの次回の合同会議の準備

WG on Strategy の共同進行役である Chris Buckridge から、WG で作成した Vision Document に書かれている 2025 年度以降の IGF の在り方や国連、WSIS との関係などについて概略が説明された。

- インターセッショナルワークの重要性とその作業モデルの見直し
- すでにあるインターネットガバナンス関連の組織やプロセスと重複するものを新たに作るのではなく、すでにあるプロセスを発展させる必要があること
- NetMUndial+10 の成果文書中のサンパウロマルチステークガイドラインの管理者の役割を IGF が担うべきであることについて議論が必要
- IGF2025 のサブテーマの一つである「デジタル協力」はこれらの課題について議論することを期待すること
- GDC のフォローアップについて、オスロでの IGF2025 でこれに関するセッションを企画することを検討中。
- IGF と WSIS パートナーである国連機関との連携と協力の強化の必要性
- 国連における IGF 事務局の存在感の拡大の必要性
- この文書中で挙げられた様々な課題について、この文書中に答えがあるわけではなく、今後も議論の継続が必要であること

(出された意見)

- 資金調達の問題は重要であり、追加すべきではないか。
- IGF への資金調達のアプローチ方法については、タイミングが重要であり、また、単に十分な資金を得るという問題ではなく、ボトムアップで独立した方法で運営されている IGF の能力に資金調達方法がどのような影響を与えるかを考えるべき。
- インターネットを使って巨大な利益を上げている大手のテクノロジー企業に出資を求めてはどうか。国連機関であっても混合資金調達という方法が可能。

- 資金調達の話だけでなく、長期的な今後の IGF について議論するセッションをオスロでの IGF2025 で行うべき。

(次のステップ)

- リーダーシップパネルと MAG の会合日程を調整中。2 月 14 日？
- IGF と WSIS との連携について、水曜日に ITU から参加したギタンジャリ氏を通じて、2 月の AI for Goods サミット、6 月末の IGF2025、7 月の WSIS+20 フォーラムの連携について検討を始めている

14:00 – 14:15 評価、次のステップおよび閉会

Closing remarks from the Host Country Co-Chair and MAG Chair

MAG 議長 Carol Roach より、今日の議論の結果について確認し、終了。